



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -

～クラブのテーマ～

こころゆたかなロータリアン

～本年度会長方針～

ロータリアン 一歩 前へ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012年度
R.I.会長メッセージ

第1006回例会 2012年1月11日 No.977号

会長時間



会長 南條 泰

あけましておめでとうございます。皆さんは新しい年のはじめをどのように過ごされたでしょうか。この休みに一冊の本を読みました。武田邦彦氏の書かれた「エネルギーと原発ウソをすべて話そう」です。興味ある事をお話します。

【水力発電】

山を削り川をせき止めダムを作り水の落差を利用して電気を作ります。環境に良い発電方法と言われていますがほんとうでしょうか。ダムに落ち葉が溜まります、上流よりの土砂でダムは詰まります、川の流れが規制され植物は減少します、魚も少なくなります、つまり昔と比べ川の水は汚染されているのではないのでしょうか。

【太陽光発電】

個人住宅で自分用の電気を作るのはまだ良いのですが、産業用となると国土の狭い日本では適した場所が見つからないのではなからうか。太陽光発電は政府指導の補助金で維持されているのが実態です。このパネルを作るエネルギーも考える必要があります。この分野で進んでいるドイツでは今まで12兆円の投資して1万キロワットあたり876億円かかっている、政府は改めて投資対効果の検証をしているそうです、日本ではどうなるのでしょうか。

【地熱発電】

地熱を利用してタービンを回すと、使用した地熱を冷やす必要があります。これが大変です。川の水を使うと冷やした後は川に戻すので水温があがり環境が激変します。

【風力発電】

風車が回ると低周波が発生します。これが人体に悪影響です。周囲に何も無い砂漠であれば良いのですが、それと風の流れが変わるので山の木に悪影響です。

こうして考えるとどれが一番とはいえません。今後の技術革新に依存するしかなさそうです。みなさんはどのように考えられますか、やはり原子力発電がよいですか、一人ひとりが考える時ではないでしょうか。

心ゆたかなロータリアン 一歩前へ進んで行きましょう。

今回の例会(1月18日)

年男の卓話

森川和彦 君 瀬川長良 君
武田龍雄 君 船場誠吾 君

次回の例会(1月26日)

広島北・広島陵北・広島安佐
3RC合同夜間例会
※1/25(水)の変更

出席報告 (渡部幹事)

1月11日(水)出席者

会員総数	38名
出席会員	33名
欠席会員	5名
ご来賓	1名
ご来客	3名
ゲスト	1名

来客者紹介 (南條会長)

1月11日(水)出席者

東城RC	1名
広島西RC	2名

幹事報告(渡部幹事)

■出席報告

■お知らせ

・インターシティ・ミーティングのご案内を配布しております。理事・役員・委員長・入会3年未満の方は出席義務となっておりますので、ご出席下さいませようお願いいたします。ご回答は回覧にてお願い致します。

【とき】3月11日(日) 10:00～

【ところ】広島国際会議場

■BOX配布物

・ロータリーの友(1月号)
・ガバナー月信

【例会】 毎週水曜日(12:30～13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】南條 泰

【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】渡部 邦昭

【ホームページ】<http://www.ryohoku-rc.jp/>

【FAX】082-221-4870

来 賓 卓 話

能面師 野村 鷺 様

能の源流は神楽に始まります。神楽すなわち申楽は、猿楽や田楽となり唐散楽と交わり物真似や曲芸、或いはそれに寸劇的な演技も加わって雑楽となり、次第に整備されて十三世紀(鎌倉時代)の中頃には狂言も独立して、歌舞伎的要素を持つ申楽の能が生まれたのです。



つづいて、十四世紀の後半には大和四座の一つ結崎座(観世)の創始者観阿彌により従来の申楽の能とは一変した。新しい形態の物語の有る、幽玄味に富んだ申楽の能が生まれたのです。能面を創る人を観阿彌の子世阿彌は「猿楽談義」に「打ち手なり」と言って居り、能面を創る人を「面打ち」と言います。佛像を創る人は彫るとか刻むとか言っております。打つという言葉は刃を打つと同意語であります。平安時代、名物刃「童子切」の事を書いた古文書に「安網刃を打ちあぐる」とあり、世阿彌時代(室町)より以前に刃は打つと言われて居り、面打は刃を打つ同意語であり刃と同杯、力強い心構えでとらえられ使われたものと思われま。

世阿彌の書いた申楽談義に「能を観る」には「出来場を忘れて能を観よ、能を忘れて「シテ」を観よ、「シテ」を忘れて心を観よ、心を忘れて能を知れ」とあります。能は、所作、動作、表情で舞うものではなく心で舞うものです。同じ面を付け同じ所作で舞っても名人の舞とそうでない人の舞いとでは全然違う感じを観客に興えます。また、名手の舞もそれぞれ、その人の舞いで演じられます。心で舞うとは「思い入れ」をして舞うと言うことです。観客に演者の思い入れを伝えることです。その思い入れを邪魔する能面であってはいけないと言う事です。

面を打つ口伝に「口より始まって目に至る」とあります。口より作り始めて最後に目を仕上げると言う意味で、口の作りの位置が面全体の位の基となります。目は最後に仕上げます。瞳を入れるのは、いわゆる「開眼」と言われ、心静かに彫る事が大切で、早朝を選んで彫り始め日の出と共に瞳を開きます。口の品位を最後に目によって定めると言うことです。



.....SMILE BOX

割方寿祥 君

第88回箱根駅伝にて我が母校東洋大学が見事優勝いたしました。応援ありがとうございました。

鈴木大次郎 君

明けましておめでとうございます。本年も皆様どうぞよろしくお願ひ申し上げます。年始には皆様よりお年賀状をお送り頂き大変有難うございました。

当日計	44,000円	累計	615,189円
-----	---------	----	----------